

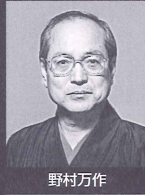
舞囃子 鷺

シテ・五位の鷺
笛
小鼓
大鼓
太鼓
地頭
地謡
地謡
地謡
地謡

観世鏡之丞
一噌隆之
宮増新一郎
柿原弘和
観世元伯
梅若万紀夫
伊藤嘉章
梅若紀長
遠藤喜久
馬野正基



観世鏡之丞



野村万作



野村万作



一噌隆之



柿原弘和



観世元伯



観世喜正



宮増新一郎

ごあいさつ

能を初めてご覧になる方への道しるべとして、入門編→企画公演→本公演、の3つの公演を重ねて参りました。今回の『神遊』の第7回公演では、舞囃子『鷺』狂言『朝比奈』能『海士・懐中之舞』をご覧いただきます。入門編、企画公演では、お客様にいかんにか軽に能に触れていただくかを考え方の中心にして、演目の選択などをおこなってきました。この本公演では、私たち、神遊のメンバーのこれからの芸をどうしてゆくのかを見据えつつ、能楽界の大先輩方の懐をお借りして、より緊張感のある舞台をお見せしたいとの意気込みで、選曲、配役を致しました。気合いの入った、『神遊』の舞台をご堪能いただければと思います。

舞囃子『鷺』(さぎ) 空を自由に飛び回ることのできる鳥類の鷺でさえ、帝の威光の前には従順になるという天下泰平を寿ぐ演目。見どころは『鷺乱(さぎみだれ)』という特殊なテンポの舞。元服前か還暦後でなければ舞うことを許されない秘曲を舞囃子でお見せします。人間国宝観世鏡之丞師の至芸をご覧ください。

狂言『朝比奈』(あさひな) 地獄へ落ちる亡者を物色する閻魔大王が、目をつけた相手は、和田合戦の豪傑・朝比奈義秀であった。勇敢な朝比奈との勝負に負けた閻魔大王は、彼を地獄へ引きずり落とすことを諦め、和田合戦での朝比奈の武功を語らせ、なんと極楽への道案内をするのだった。狂言らしい着想と閻魔の弱さが笑いを誘うなかなかの大曲。野村万作、萬斎父子の息の合った舞台です。

能『海士 懐中之舞』(あまかいちゅうのまい) 大臣・藤原房前は、実母の追善のため讃岐国・志度の浦にやってくる。そこに現われた中年の海士(素潜り漁をする女性)から、海底の竜宮城に取られた中国伝来の宝物の玉を取り返した話や、房前が藤原家の跡継ぎになった出生の謎を聞かされる。実はこの海士こそ、房前の実母の幽霊であったのだ。この霊を慰めるべく法要を催す房前の前に、母が龍女の姿で現われる。仏教の決まりで龍女に変成することによって成仏できたことを喜び、経典を読み、感謝の舞を舞う。讃岐の名刹・志度寺の縁起、藤原北家の隆盛、龍宮からの玉取り伝説、女性の龍女変成などのテーマをうまく盛り込み、前段の「玉之段」をはじめとする見せ場の多い名曲。

狂言 朝比奈

シテ・朝比奈
シテ・閻魔大王
地謡
地謡
地謡
地謡

野村万作
野村萬斎
野村万之介
深田博治
高野和憲
月崎晴夫

能 海士 懐中之舞

前シテ・海士の霊
後シテ・龍女
子方・房前的大臣
ワキ・大臣の家来
アイ・志度の浦人
笛
小鼓
大鼓
太鼓
後見
後見
地頭
地謡
地謡
地謡
地謡
地謡
地謡

観世喜正
中森慈元
鍋木岑男
野村萬斎
一噌隆之
宮増新一郎
柿原弘和
観世元伯
永島忠修
五木田三郎
観世鏡之丞
梅若万紀夫
伊藤嘉章
梅若紀長
中森貫太
遠藤和久
遠藤喜久
馬野正基

神遊

第7回公演

海士

あま
ま



平成11年
9月15日(水・敬老の日)
14時開演(13時15分開場)

国立能楽堂

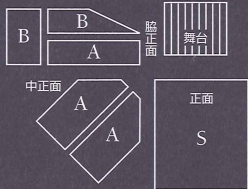
全指定:S席 8000円
A席 6000円
B席 5000円

前売開始 8月2日(月)

お問い合わせ: 神遊 03-5227-1830

お申し込み: 神遊 03-5227-1830

チケットびあ 03-5237-9988



JR中央線千駄ヶ谷駅下車 徒歩5分 / 都営バス早01・早77 千駄ヶ谷駅前
駐車場はございませんので、お車のご来場はご遠慮下さるようお願いいたします。